[講演要旨]

前近代の日記における地震動の大きさ表記と信頼性

片桐昭彦(東京大学地震火山史料連携研究機構, 地震研究所)

§1. はじめに

本発表では, 前近代の日記に記述される地震動の大小強弱を示す尺度表記のあり方について検討する. 前近代の歴史地震研究にとって日記は, 地震発生の年月日や時間帯等までわかる有効な史料ではあるが, 記主の経験に基づく主観により記述される点において, 各日記の性格も踏まえなければ, 正確な情報を得ることはできない側面がある.

日記には, 巨大地震等を契機に地震記事が増減する日記もあれば,地震動の尺度表記に変化が生じる日記がある. 例えば, 武蔵国柴崎村(現東京都立川市)の名主鈴木平九郎の『公私日記』では, 安政 2 年 10 月 2 日(グレゴリオ暦 1855 年 11 月 11 日)の江戸地震発生以前の地震動の尺度は「大地震」と「地震」の 2 段階であったが, 発生後は新たに「小地震」「小震」が加わり 3 段階の表記に変わる(片桐 2017).

このような変化の傾向が一般的に見られるならば, 過去の巨大地震を見出す新たな手がかりの一つになると考える. 本報告では, 巨大地震と日記における尺度表記変化のあり方との関係に普遍性を見出せるか検討するとともに, その変化の指標を探る.

§2. 余震を示す地震動の表記

12 世紀後半の公家吉田経房の『吉記』では, 元暦 2 年 7 月 22 日(ユリウス暦:1185 年 8 月 19 日)の大地震直後に「小動」が 6 度続いたと記す. 14 世紀後半の公家近衛道嗣の『愚管記』では, 康安元年 6 月 22 日(同前:1361 年 7 月 24 日)・23 日の連日大地震に伴う地震動に「小動」と記される. 15 世紀前半の公家中山定親の『薩戒記』では, 応永 32 年 11 月 5 日(同前:1425 年 12 月 14 日)の大地震直後に「小動」と記される.

上記の日記にみられる地震動の大きさは,基本的に「大地震(大震,大動)」と「地震」の 2 段階で表記されるが,上述の大地震直後に限り「小動」という新たな尺度表記が記される. 本震である大地震との比較から「小動」と表記された余震と考えられるが, それ以後の地震には「小動」は用いられず定着しない.

§3. 地震動の尺度 3 段階表記への変化

14 世紀前半の花園天皇の『花園天皇宸記』では, 正和 6 年正月 3 日(同前:1317 年 2 月 14 日)の大地震以後「小地震」「小動」の表記が加わる. 14 世紀後半の公家三条公忠の『後愚昧記』では, 康安元年 6 月 21 日(同前:1361 年 7 月 23 日)～24 日の連日大地震以後「小動」の表記が加わる. 15 世紀前半の公家中原康富の『康富記』では, 文安 6 年 4 月 12 日 (同前:1449 年 5 月 4 日) の大地震以後「小動」の表記が加わる. 15 世紀後半の公家近衛政家の『後法興院記』では, 明応 2 年 10 月 30 日 (同前:1493 年 12 月 8 日) の大地震以後「小動」「小地震」の表記が加わる. 16 世紀後半～17 世紀初の公家山科言経の『言経卿記』では, 文禄 5 年閏 7 月 13 日(グレゴリオ暦:1596 年 9 月 5 日)の大地震以後「小動」「小地動」の表記が加わる.

上記の日記にみられる地震動の大きさはいずれも基本的に「大地震」と「地震」の 2 段階で表記されるが, 巨大地震直後からある程度 (数か月以上) の期間を経過した後でも「小地震」「小動」を使っている. 余震だけでなく, 新たな地震動の大きさを示す表記に「小地震」「小動」が加わり, 3 段階の尺度使用に変化し定着する.

§4. 地震動の尺度 4 段階以上の表記への変化

12 世紀後半の公家中山忠親の『山槐記』では, 元暦 2 年 7 月 9 日 (ユリウス暦:1185 年 8 月 6 日) の大地震以後, 「小動」「小地震」とともに「中動」の表記が加わる. 19 世紀半ばの駿河国大宮町(現静岡県富士宮市) の商家横関家当主が記した『袖日記』でも, 嘉永 7 年 11 月 4 日(同前:1854 年 12 月 23 日)の東海地震以後, 「小地震」「地震小」および「地震中」の表記が加わる. このように小地震だけでなく中地震の表記が追加される. 中地震と通常の「地震」表記が併用されることから, 記主本人は両者を区別し用いたと考えられる. 大地震と地震の 2 段階から, 大地震, 中地震, 地震, 小地震の 4 段階の尺度に変化し定着する.

19 世紀の三河国羽田村(現愛知県豊橋市)の浄慈院主慈明覚禅の『浄慈院日別雑記』では, 嘉永 7 年 11 月 4 日の東海地震以後, 「小地震」「小震」および「中ノ大地震」「小ノ大地震」「中地震」の表記が加わる. 大ノ大地震,中ノ大地震,小ノ大地震,中地震,地震,小地震の 6 段階の尺度表記に変化し定着する.

§5. おわりに

前近代の日記には, 時代を問わず, 巨大地震の発生前後で地震動の尺度表記が変化するものを見出すことができる.地震動の尺度表記段階に変更を迫り, その後も用い続けさせる契機となった巨大地震とは, 日記の記主にそれだけの衝撃を与えたことを意味する.地震動の尺度表記が変更する際にまず普遍的にみられる指標の表記は「小地震」「小動」となろう.